

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270400890		
法人名	有限会社 諫早ケア・サービス		
事業所名	グループホーム くれも		
所在地	長崎県諫早市栗面町810-2		
自己評価作成日	令和6年2月10日	評価結果市町村受理日	令和6年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和6年3月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

能力に合わせリハビリメニューを決め、歩行訓練や歩行不能は人にはマッサージ、関節の屈伸運動等を職員一丸となり行い維持に努めている。又、個々の趣味を会話の中で見出し、レクリエーションの中に取り入れる事で日々の生きがいを見つけ活動的に生活されている。その為か食器拭き、洗濯物干したたみ等自ら役割を持って活動されている。状態低下した場合は、医療・家族と連携を図り、その方に対し職員としてな何をすべきか、何を求めているのか度々話し合い一つの方向を向いて一丸となり穏やかに本人らしく家族の方と終末を迎えられるような支援をしている。残された時間を大切にできるよう理念に沿った介護に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの代表者が、入居者一人ひとりがその人らしく最期まで誇りをもって生活をしてもらいたいとの思いで約20年前に開所した。当ホームはこれまで80件以上の看取りを行い、退所した入居者の家族との絆は今も続いている。ホーム内は清掃が行き届き、清潔で気になるような臭気もなく、穏やかな生活を送ることができる。1年を通して地域の方も参加できる秋祭りや餅つきなど様々な行事を開催し、また、敬老会にあわせて4年ぶりに家族会を開催し、入居者の残された時間を、家族の方と大切に過ごしてほしいという姿勢で職員全員で取り組んでいる。職員は介護の専門職として日々入居者の精神面や体調面をしっかりと観察しながら、理念に沿ったケアの実践を当たり前として捉え、管理者から職員の対応には感謝しかないという言葉からも、今後も更なるチームケアの充実に期待が持てるホームと言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1号館)	実践状況(ユニット名: 2号館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者は理念である“一人一人の尊厳を大切にする”を掲げ、入居者の暮らしを支える為、毎日申し送りや月1回の職員会議時を活かし、日々の介護に取り組んでいる。	管理者は理念である“一人一人の尊厳を大切にする”を掲げ、入居者の暮らしを支える為、毎日申し送りや月1回の職員会議時を活かし、日々の介護に取り組んでいる。	人生の先輩である入居者が伸び伸びと生活してもらえたらとの思いが、理念の「一人一人の尊厳を大切に」の中に活かされ、その理念を全体に浸透させ、実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	老人会の会合に参加したり、年2回の地域との交流を行い地域の方々と顔なじみの関係を作っている。	老人会の会合に参加したり、年2回の地域との交流を行い地域の方々と顔なじみの関係を作っている。	ホームで行う夏祭り(秋祭り)や餅つきなどの各種イベントは、地域からの要望を受けて始めたものであり、今年度、4年ぶりに開催し、地域の方も参加して盛り上がった。ホームには民生委員から野菜の差し入れなどもあり、地域との付き合いを大事にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生や高校生の職場体験を受け入れ、介護の担い手となる人たちの勉強の場として活用してもらっている。	実習生や高校生の職場体験を受け入れ、介護の担い手となる人たちの勉強の場として活用してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中での活動報告や抱えている問題等を定義し、意見を聞かせて頂き参考にさせてもらっている。行事等にも参加して頂いている。	運営推進会議の中での活動報告や抱えている問題等を定義し、意見を聞かせて頂き参考にさせてもらっている。行事等にも参加して頂いている。	運営推進会議のメンバーは市職員、民生委員、地域住民、ホーム職員で構成され、年6回開催している。ホームからの報告事項や参加メンバーからの意見、それに対するホームの回答を記録として残しており、サービス向上へ活かすよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1号館)	実践状況(ユニット名: 2号館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通じて、施設の雰囲気を見てもらい、より深く相談しやすくなり、助言をしてもらう事で質の向上に繋げている。	運営推進会議を通じて、施設の雰囲気を見てもらい、より深く相談しやすくなり、助言をもらう事で質の向上に繋げている。	市担当者に対し、運営推進会議のメンバーとして参加要請し、意見や提案を頂いたり、ホームの現状を知ってもらい、直接、要望等を伝えている。市主催の研修会に参加し、質の向上へ繋げるなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠等をする事なく、目配りの中で生活の支援のしている。又、代表者を含め職員と身体拘束はしないという方針の中でケアの提供を行っている。	玄関の施錠等をする事なく、目配りの中で生活の支援のしている。又、代表者を含め職員と身体拘束はしないという方針の中でケアの提供を行っている。	玄関の施錠やセンサーマットの使用はせず、職員の目配りや気配りの中で生活することを大事に考えている。身体拘束をしないケアや虐待の防止の話し合いも定期的に行っている。	今後、運営規程に「虐待の防止のための措置に関する事項」を明記し、職員に周知すると共に、家族へ説明して取り組むことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等に参加し、虐待は絶対に行ってはならないと日々管理者と職員とで話し、意見の統一を図っている。	研修等に参加し、虐待は絶対に行ってはならないと日々管理者と職員とで話し、意見の統一を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成人後見人制度について研修は受けたが、現在該当する人はいない。必要となったときは活用できるように支援していきたい。	成人後見人制度について研修は受けたが、現在該当する人はいない。必要となったときは活用できるように支援していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1号館)	実践状況(ユニット名: 2号館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ時点で説明を行い、不安・疑問等を話し、初期段階で理解・納得してもらっている。契約書にも記載している。	契約を結ぶ時点で説明を行い、不安・疑問等を話し、初期段階で理解・納得してもらっている。契約書にも記載している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見・要望が発生した場合、その都度管理者や職員で話し合い解決していくようにしている。家族の思い・利用者の思いを考えながら日々のケアを行っている。	利用者や家族の意見・要望が発生した場合、その都度管理者や職員で話し合い解決していくようにしている。家族の思い・利用者の思いを考えながら日々のケアを行っている。	玄関に意見箱を設置している。また、外部評価における家族アンケート用紙は、直接家族に手渡し、「率直な意見を聞きたい」と説明して要望や意見を表せる機会に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議時、施設の状況等を説明し、理解を求めている。又、職員からも打開策の意見等を取り入れ反映させている。	職員会議時、施設の状況等を説明し、理解を求めている。又、職員からも打開策の意見等を取り入れ反映させている。	月1回の職員会議において、ホーム行事の企画・提案や、入居者の支援方法について意見等が活発に出されており運営に反映させている。勤務年数が長い職員が多く所属し、経験豊富な職員が新しい職員を育てるといった体制も構築できている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表は希望を取り入れ作成。リーダーを中心として行事の企画・立案等、各人の能力を引き出すようにしている。又、研修の参加や資格取得する目的を持たせて働く意欲を持たせている。	勤務表は希望を取り入れ作成。リーダーを中心として行事の企画・立案等、各人の能力を引き出すようにしている。又、研修の参加や資格取得する目的を持たせて働く意欲を持たせている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1号館)	実践状況(ユニット名: 2号館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会に参加してもらったり、資格取得の目的をもってもらったりとスキルアップできるように支援している。	研修会に参加してもらったり、資格取得の目的をもってもらったりとスキルアップできるように支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会の研修に参加することで、他の施設の職員との交流を行ったり、訪問する機会を設け、お互いにスキルアップ出来るように取り組んでいる。	連絡協議会の研修に参加することで、他の施設の職員との交流を行ったり、訪問する機会を設け、お互いにスキルアップ出来るように取り組んでいる。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者本人との面談の中で、何を求めどのように生活していきたいのかを聞いて、本人の不安の解消に繋げている。	入居者本人との面談の中で、何を求めどのように生活していきたいのかを聞いて、本人の不安の解消に繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の家族との面談の中で、不安や困っている事を聞き、施設の方針を説明しながら家族の不安を取り除くよう努力している。	入居前の家族との面談の中で、不安や困っている事を聞き、施設の方針を説明しながら家族の不安を取り除くよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1号館)	実践状況(ユニット名: 2号館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネ・本人・家族を交え話し合い、必要としている支援や家族の希望等を見極め支援している。	担当ケアマネ・本人・家族を交え話し合い、必要としている支援や家族の希望等を見極め支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	すべてを支援するわけではなく、個々の能力に合わせてできる事は協力してもらいお互い助け合いながら共生している。	すべてを支援するわけではなく、個々の能力に合わせてできる事は協力してもらいお互い助け合いながら共生している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者一人一人の様子を写真撮影してホーム内に提示したり、機関紙で日頃の様子を伝え、年1回家族会を開催したり意見や要望等を聞き出すようにしている。	入居者一人一人の様子を写真撮影してホーム内に提示したり、機関紙で日頃の様子を伝え、年1回家族会を開催したり意見や要望等を聞き出すようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	本人にとって大切な人は職員にとっても大切な人と捉え、訪問時は心地よく過ごしてもらっている。家族との見舞い等にも連れて行ってる。	本人にとって大切な人は職員にとっても大切な人と捉え、訪問時は心地よく過ごしてもらっている。家族との見舞い等にも連れて行ってる。	現在はコロナやインフルエンザの感染対策として、面会制限を実施しているが、できるだけ家族との外出や、外食などの時間は持ってもらいたいと家族会などで伝え、送迎などホーム側で支援できることも説明している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1号館)	実践状況(ユニット名: 2号館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の見守り・食事介助等入居者自ら行っている。集団レクや共同での作品作り等を通じ仲間意識を持ってもらうようにしている。	入居者同士の見守り・食事介助等入居者自ら行っている。集団レクや共同での作品作り等を通じ仲間意識を持ってもらうようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した入居者の家族から頂き物をしたいりと継続的に会っている。又、相談は常に受けるようにし支援できることは支援していこうと考えている。	退所した入居者の家族から頂き物をしたいりと継続的に会っている。又、相談は常に受けるようにし支援できることは支援していこうと考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前面談時利用者家族の意見を把握し、職員一丸となり希望を叶えるよう努力している。本人が希望・要望することは取り入れるよう努力している。	入居前面談時利用者家族の意見を把握し、職員一丸となり希望を叶えるよう努力している。本人が希望・要望することは取り入れるよう努力している。	入居者にその人らしい生き方をしてもらうために入居時には本人や家族に趣味や好きなこと、楽しんでいること、生きがいなどをしっかり聴き取っている。ホームに入居してもやりたいことをできるだけ継続できるように編み物や縫物、読書などの趣味活動の支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を把握し、若い頃どんな仕事でどんな趣味があったかを知り、生活の中に役立っている。入居時なじみの家具を持ち込んでもらっている。	生活歴を把握し、若い頃どんな仕事でどんな趣味があったかを知り、生活の中に役立っている。入居時なじみの家具を持ち込んでもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1号館)	実践状況(ユニット名: 2号館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々入居者の状態を観察し、それぞれの能力・希望を引き出しその人らしい一日を過ごしてもらっている。	日々入居者の状態を観察し、それぞれの能力・希望を引き出しその人らしい一日を過ごしてもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1回モニタリング(変化があるとその都度)をカンファレンス時に行う。又、利用者の家族の意見を把握し職員一丸となり希望に添えるように努めている。	3か月に1回モニタリング(変化があるとその都度)をカンファレンス時に行う。又、利用者の家族の意見を把握し職員一丸となり希望に添えるように努めている。	職員も日々介護計画を目にする機会があり、計画作成担当者に提案や意見を伝えている。本人や家族の意見を電話や面会時に聞き取り、3か月に1回、目標達成度の話し合いを行って現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録に記入し、細かい変化等は連絡ノートや申し送り時に職員に伝達・実施し、介護計画の見直しに活かしている。	日々の個別記録に記入し、細かい変化等は連絡ノートや申し送り時に職員に伝達・実施し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	結婚式や家族のお見舞いなど支援している。	結婚式や家族のお見舞いなど支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1号館)	実践状況(ユニット名: 2号館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館で本を借り、入居者方に読んでもらったり、ビデオを上映して喜んでもらっている。	図書館で本を借り、入居者方に読んでもらったり、ビデオを上映して喜んでもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時家族の希望を取り入れ、かかりつけ医を決めてもらい、安心した医療を受けてもらっている。	入居時家族の希望を取り入れ、かかりつけ医を決めてもらい、安心した医療を受けてもらっている。	現在、入居者全員が協力医の訪問診療、訪問看護の支援を受けている。協力医は24時間対応しているので緊急時も指示を仰ぐことができる。他科受診にもホームで対応し、医師からの指示や薬の変更には申し送りノートを活用して職員と共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医の看護婦と相談し、健康管理や医療の支援を受けている。又、同一事業所の看護婦とも相談・協力を要請し支援している。	協力医の看護婦と相談し、健康管理や医療の支援を受けている。又、同一事業所の看護婦とも相談・協力を要請し支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際、管理者が家族と共に主治医と面談し早期退院に向けて努力を行っている。入院時の不安を取り除く為、面会等を行っている。	入院した際、管理者が家族と共に主治医と面談し早期退院に向けて努力を行っている。入院時の不安を取り除く為、面会等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1号館)	実践状況(ユニット名: 2号館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期をどう迎えるかということで協力医のDr・家族・管理者と話し合い、職員全員で方針を共有している。看取りの指針を作成し活用している。	終末期をどう迎えるかということで協力医のDr・家族・管理者と話し合い、職員全員で方針を共有している。看取りの指針を作成し活用している。	ホームはこれまで80件近い看取りの経験があり、今後も本人、家族の要望を聞きながら対応したいと考えている。最期をどう迎えるかは家族、主治医と早い段階より話し合いを行い、方針を共有している。職員が看取りを経験することで日々の体調観察力も養われていることが窺える。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応については、看護師の指導を得てマニュアルを作成し目を通すようにしている。	急変や事故発生時の対応については、看護師の指導を得てマニュアルを作成し目を通すようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回(1回は消防署立会)の訓練を行う。又、警備会社への通報装置などで災害対策を行っている。	年2回(1回は消防署立会)の訓練を行う。又、警備会社への通報装置などで災害対策を行っている。	年に2回、夜間を想定した避難訓練を中心に行っている。今年度も消防署の立会いの下で訓練を実施し、訓練時の写真付きで報告書を作成し、運営推進会議においても報告している。	ハザードマップ上において当ホームが浸水想定区域内でもあることから、自然災害に関する訓練を計画・実施すると共に例えば実際に避難先までかかる時間の把握や、家族に対しても避難先の情報を周知し、取り組むことが望ましい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣い・言葉がけ等、常に注意を払っている。ドア・カーテンを利用し、プライバシーの保護を行っている。	言葉遣い・言葉がけ等、常に注意を払っている。ドア・カーテンを利用し、プライバシーの保護を行っている。	理念である「一人一人の尊厳を大切に」支援を職員全員が心がけ、声かけや対応に努めている。入居者の性格や生活歴をしっかり知ることによって本人に合わせて対応し、プライドを傷つけないよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1号館)	実践状況(ユニット名: 2号館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一つ一つの行動に対し、本人に説明し、了解を求めるような支援を行っている。	一つ一つの行動に対し、本人に説明し、了解を求めるような支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活ペース・能力に合わせて支援を行っている。又、本人が希望するだろうとの発想の中で支援している。	入居者の生活ペース・能力に合わせて支援を行っている。又、本人が希望するだろうとの発想の中で支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ヘヤーカットが得意な職員が入居者の希望に添えるようカットの支援を行っている。無料で提供している為、金銭的な負担軽減に繋がっている。	職員に美容師がいて入居者の希望に添えるようカットの支援を行っている。無料で提供している為金銭的な負担軽減に繋がっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みに合わせ手作りのランチョンマットを選んでもらったり、職員も共に食事をし全員が食べ終わるのを待って片付けている。	入居者の目標に合わせてメニューをボードに記入し、入居者の好みに合わせランチョンマットを選んでもらったり職員も共に食事をし、全員が食べ終わるのを待って片付けている。	安全な食材にこだわり、職員が買い物へ行き、食事やおやつは手作りで提供している。誕生日のケーキも職員の手作りである。1日と15日には赤飯や刺身を提供するなど食事を楽しむことを大事に考えている。職員も入居者と一緒にテーブルを囲んで食事をし、食べ終わった後の茶碗拭きなども一緒に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1号館)	実践状況(ユニット名: 2号館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量・おかゆ・刻み等その人に合わせた食事で形態で提供し、水分補給の為夜間もペットボトルにお茶を入れるなどして対応している。	食べる量・おかゆ・刻み等その人に合わせた食事で形態で提供し、水分補給の為夜間もペットボトルにお茶を入れるなどして対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを行い、週1回入れ歯洗浄を行っている。歯磨きができない入居者については、介助にて支援している。又、トウスウエットィを使い口腔ケアを行っている。	毎食後歯磨きを行い、週1回入れ歯洗浄を行っている。歯磨きができない入居者については、介助にて支援している。又、トウスウエットィを使い口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄パターンを把握し、自立での排泄が困難な方は時間誘導するなど支援している。排泄チェック表を作成し記録を取っている。	入居者の排泄パターンを把握し、自立での排泄が困難な方は時間誘導するなど支援している。排泄チェック表を作成し記録を取っている。	排泄チェック表にて排泄パターンを把握し、声かけ誘導を行っている。トイレまでの移動はできるだけ歩いてもらうように心がけ、生活の中にリハビリを取り入れている。オムツ代の負担軽減のためにオムツ管理表でオムツやパットの使用数を管理し、職員間で本人に合ったオムツ用品の選定や排泄介助に関し常に情報共有を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や繊維の多い食べ物の摂取を心がけ、毎日ラジオ体操や散歩を行っている。又、排泄チェック表により排便のチェックを行い腹部マッサージやDrと相談し薬の調節を行っている。	水分補給や繊維の多い食べ物の摂取を心がけ、毎日ラジオ体操や散歩を行っている。又、排泄チェック表により排便のチェックを行い腹部マッサージやDrと相談し薬の調節を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1号館)	実践状況(ユニット名: 2号館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴回数は週3回で介助しながら一人一人の入浴を行い、必要に応じシャワー浴等支援を行っている。拒否がある入居者には時間をずらしたり次に日の入浴を行っている。	入浴回数は週3回で介助しながら一人一人の入浴を行い、必要に応じシャワー浴等支援を行っている。拒否がある入居者には時間をずらしたり次に日の入浴を行っている。	入浴は週に3回実施できるようにし、菖蒲湯など入浴を楽しむことができる工夫を行っている。入浴を拒否する入居者には、その人に合った声かけ対応をしたり、入浴時間や日にちの変更など柔軟に対応している。体調不良時など入浴ができない場合は清拭や更衣を行い、皮膚の状態観察を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の活動を多く取り入れ、夜間良眠に繋げている。睡眠パターンを記録で把握し、眠剤の服用をせずホットミルクや湯たんぽで支援している。	昼間の活動を多く取り入れ、夜間良眠に繋げている。睡眠パターンを記録で把握し、眠剤の服用をせずホットミルクや湯たんぽで支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬については全員が処方箋をファイルし、職員がいつでも目を通せるようにしている。変更があった場合は申し送りや連絡ノートに記入し、状態の観察を行っている。	内服薬については全員が処方箋をファイルし、職員がいつでも目を通せるようにしている。変更があった場合は申し送りや連絡ノートに記入し、状態の観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・調理・茶碗拭き・洗濯物干し・たたみ・園芸等自分の役割が生きがいに繋がるように支援している。又、個々の趣味も継続できるように支援している。	掃除・調理・茶碗拭き・洗濯物干し・たたみ・園芸等自分の役割が生きがいに繋がるように支援している。又、個々の趣味も継続できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1号館)	実践状況(ユニット名: 2号館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの為退出の支援はない。家族との外出等もない。(病院受診は除く)	コロナ禍により今は外出等は行っていない。(病院受診は除く)	コロナ禍や入居者の重度化により以前と比べて日常的な外出は減少したが、ホームの方針として「家族と過ごす時間は大切」と示し、家族と外出したり、外食には車で送迎することも協力できる体制である。ホーム行事として、花見や紅葉の見学など外出する機会を持ち、入居者が楽しんでもらえるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの入居者は自己管理していない。施設での立替で買い物に行き自らのお金を支払う事ができるように支援している。	ほとんどの入居者は自己管理していない。施設での立替で買い物に行き自らのお金を支払う事ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が希望すれば子機を渡し、自室にて使用できるようにしている。	入居者が希望すれば子機を渡し、自室にて使用できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにはテレビ、ソファを置き入居者が集まりやすい雰囲気である。手作りの暖簾をかけ台所はカウンターキッチンで常に入居者が目にはいるようになっている。清潔をモットーとしている。季節に合わせた雰囲気作りをしている。	ホールにはテレビ、ソファを置き入居者が集まりやすい雰囲気である。手作りの暖簾をかけ台所はカウンターキッチンで常に入居者が目にはいるようになっている。清潔をモットーとしている。季節に合わせた雰囲気作りをしている。	入居者が居室に閉じこもりにならず、リビングで職員や他の入居者と会話や交流ができるようテレビやソファの配置などを工夫している。また、コロナ禍前より噴霧器を共有空間に設置し、感染対策に努め、掃除も行き届いている。玄関口には季節の花が飾られ、穏やかな雰囲気を感じることができる。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1号館)	実践状況(ユニット名: 2号館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには食卓テーブル・ソファを設置し、入居者同士自由に過ごせるように配慮している。	ホールには食卓テーブル・ソファを設置し、入居者同士自由に過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は入居者が入居前に使用していた家具や生活用品等が持ち込まれ、その人らしい部屋作りになっている。	各居室は入居者が入居前に使用していた家具や生活用品等が持ち込まれ、その人らしい部屋作りになっている。	ホームの備え付けはベッドとエアコンのみで、入居前に使用していた馴染みのある家具の持ち込みを可能とし、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。日中、使用しないポータブルトイレは居室には置いたままにせず、適宜収納や目隠しをして配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の安全管理を配慮し、居室入り口や廊下等手すりを設置。床面はバリアフリーとなっている。手作りの表札や手作りのカレンダー・時計の位置にも配慮している。	入居者の安全管理を配慮し、居室入り口や廊下等手すりを設置。床面はバリアフリーとなっている。手作りの表札や手作りのカレンダー・時計の位置にも配慮している。		